



長く村議会議員や遺族会長を務めた伊藤二三郎は伊藤孝八の長男として、明治三十五年一月五日ハワイのオアフ島に生まれた。

近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

伊藤二三郎

二三郎九歳の時一家はハワイを引き揚げ、下関に代々続いた権左工門家に帰ってきた。大正五年三月二十五日関谷村立関尋常高等小学校高等科を卒業。

農業のほかいろいろな仕事を手がけた。精米所を営業し地域から喜ばれ商売繁昌した。また当時は養蚕が盛んで、二三郎は稚蚕の飼育に力を入れた。そして内助の功が大きかった妻カツとの間に男四人、女五人の計九人の子宝に恵まれた。

昭和二十二年四月関谷村村議会議員に当選し、以来昭和四十二年七月まで二十年三か月の長きにわたって村議会議員として建設的意見を村政に反映させ村の発展に尽力した。その間昭和二十九年より三十二年まで産業委員長に在任し、関川村女川村両村合併後の新村建設計画の樹立に尽力。率先垂範して開田を行うなど本村開田の先駆者となった。昭和三十三年九月より九年間社会文教委員長に在任し、この間、女川中学校川北分校の関谷中学校への学区編成替に尽力。

また田麦分校校舎の改築と体育館の新築、女川小学校の体育館の新築、関谷中学校の増築、安角小学校新校舎と体育館の新築、そして昭和四十

一年関谷中学校火災後の復旧や土沢小学校体育館改築など教育環境整備に努めた功績は大きい。

昭和二十四年より四年間関谷農業協同組合長に在任中は国の食糧危機の時代に呼び応じ、食糧増産の普及に努力する一方、郡養蚕連の理事として養蚕普及に努めた。

また戦後の農地解放時は農地委員（小作代表）として農地解放の円滑なる推進のために日夜努力した。

太平洋戦争で二男が中国張家口で三男がフィリピンで戦死した。戦後の混乱した世情の中で遺族の親睦と健全な発展を期すため昭和二十五年遺族会発足に努力し、昭和三十五年より六年間関川村遺族会副会長として、更に四十一年四月一日より五十一年三月二十六日までの十六年間の長きにわたり遺族会長として健全な会の運営に寄与した。

昭和四十九年十一月勲六等単光旭日章を受章。平成五年七月七日九十一歳で没した。

・伊藤家の系図

先祖
権左工門：孝八 二三郎
俊三 新一

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

白南天頰かちし人は世を去りぬ 渡辺しづい

香と苦味朝の新茶で邪気の消え 佐藤 ノブ

やや派手に集いの朝の更衣 渋谷 くに

蒼天を揺り動かして花辛夷 五十嵐貞子

蝸牛無心に探し手に這わせ 米野 セツ

青蛙郵便受けでだれを待つ 青木 慶一

着て脱いでまた着更えたる暑さかな 南 セツ

せきかわ川柳会作品「踊り」、「隅」、「雑詠」

あの人は隅に置けない二枚舌 渡辺しづい

踊る背に視線集るいい娘 南 セツ

なつかしい一つ覚えの踊りでも 高橋 イツ

有難い流れる月日苦も溶かす 佐藤 ノブ

踊りの輪仮装はずせば顔意外 平田 千恵